

A ; 日本人には理解できないが、文化・価値観の違いとして許容できる “何故”  
むしろ、日本人が中国人を理解せねばならない事。

## 第 1 計;中国人は何故離婚が多いのか？

—改革開放の負の遺産です—

この項目の答えを先にいいますと、1978 年鄧小平が初めて日本に来て  
“先富論”を言いだした以降に中国の漢民族に離婚が急激に増えました。  
それには中国近代史を理解する必要があるので、章別に書きます。

### 第一章；中国では漢民族に離婚が多く少数民族に離婚が少ない。

私が中国人の漢民族に離婚が多いのに気付いたのは今から約 8 年前で  
ありました。私が中国漢民族の知人数人に確認したのですが、極端な言  
い方をすると、仮にある人の友達が 10 人いるとすると、8 人が離婚、一人  
が離婚訴訟中というようなケースが非常に多いのに吃驚したことがあり  
ます。特に 35 歳以上に多く見られます。

(しかしながら、少数民族は離婚が少ない。この事実は決して漢民族に比べ収入が  
少ないからだけではないようです・・・)

少数民族の一つウイグル族は中国語以外に当初ロシア語を勉強する人  
が多かったがロシア語を勉強してもロシアの人達が新疆・ウイグル地区に  
旅行する人が少なく、ロシアとのビジネスチャンスが少ないので逆に旅行

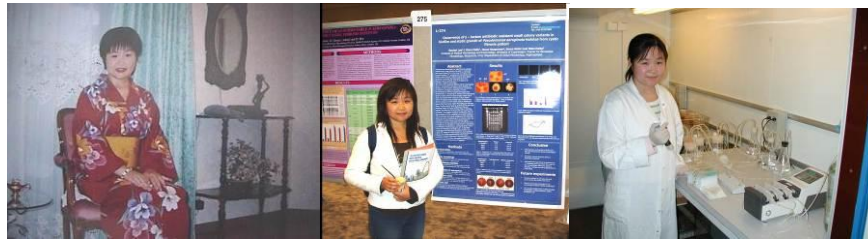
客の多い日本人とのビジネスを考えました。そんな地区で日本語を新たに勉強し、国際旅行のガイド資格を取得した女性に出会いました。取材したところ、漢民族支配の地方政府がカシュガルの再開発で、郊外の砂漠の中にウイグル人の引っ越しの為に作った新しい団地には誰もウイグル人が住んでいないということがわかりました。理由は砂漠の下にウイグル族の先祖の墓がたくさん眠っているので入居しないという事でありました。先祖は先祖である。現在は別として先祖の土地である。墓があればどこの国の民族の領土であるかは明らかなのであります。

私は、この時、日本にもバブル時代のダム建設（ダム建設で農村が水没で地元農民の反対運動が起こった。）の事案を思い出した次第であります。

また、夜ガイドをしている女性のご主人に会いました。同じ目的をもった同志愛（お互いが尊敬しあう団結力のある）のある夫婦でありました。

少数民族には数ヶ国語を話す人はいくらでもいます。私の知人のモンゴル人の妹は7ヶ国語を話します。（蒙古語・中国語・日本語・英語・フランス語・ドイツ語・デンマーク語）彼女は最終的にデンマーク人の同僚である生態学者と結婚しました。子供は現在5ヶ月であり、蒙古の砂漠化を止めるにはどの植物を育てればよいかを研究しています。祖国愛の為、色々な国を旅し、幸いにもよき伴侶（デンマーク人）と巡り合い結婚したのであります。彼女

は西遊記の女性版三蔵法師のような気がする人です。特別な美人ではないが、聡明で品格がある。育ちがよい。事実、蒙古の三大將軍アスクンの孫であるらしいのです。(三大將軍の随一はウランフで毛沢東の時代に国家副主席をし、北京の北京民族大学初代学長であった。)



話を元に戻すと、最近日本でも離婚率が増加していると聞くが、私の観察では中国人の漢民族の二人に一人は離婚経験者のような気がします。

そして、それは中国の高・上層部、中層部・下層部の各層に見られます。

## 第二章；極端な中国の平等主義の導入

1949年毛沢東が「中華人民共和国」建国の宣言をすると、女性の権限が強化され、男女平等も含め一部の指導者を除きお金持ちも貧乏人もすべて平等社会になった。中国の歴史リセットで中国の現在は、恰（あたか）も衣服をつけた超古代の原始共産主義世界に戻ったのであります。

この状態は文化大革命（1966年～1977年）1977年毛沢東の死去まで続きました。

## 第二章；極端な中国の平等主義の修正から第二次天安門事件

1978 年に「日中平和友好条約」が結ばれ、鄧小平は日本を訪れて日本の経済力と技術力に圧倒されて、帰国後、外資の導入を一部地域に限り許可することで経済成長をはかるという「経済特区」を定め、極端な中国の平等主義の修正をしました。「先に豊かになりましょう」、所謂「先富論(改革開放の始まり)」の導入です。同時に、この年に「一人っ子政策」が導入されました。

「一人っ子政策」が導入されるということは、中国共産党員は二人目の子供が出来ると、職を辞職するか離婚しなければならない。共産党員でない公務員も同じです。また一般の漢民族は高額な罰金（罰金 10 万元と高校までの第一子に対する政府からの教育費助成金約 10 万元、合計 20 万元日本円で約 300 万円、中国の生活水準の実質貨幣価値 (1/4~1/6) を日本円に換算すると日本円の 1200 万円から 1800 万円の負担となるという事です。)を支払わなくてはならないということです。それと共産党の高層部・上層部で奥さんが断りきれない賄賂を貰ったことが原因で離婚するケースもあるのです。

1979 年に一人っ子政策（计划生育政策 jìhuà shēngyù zhèngcè）導入。

1983 年に人口センサス（全数調査による人口データ）が実施されました。

1984 年にマルクスレーニン主義の限界が人民日報から発表されました。

1985 年中国沿岸地区が経済特区として解放されました。

1986 年北京に初めて株式会社が設立されました。

「先富論」は緩やかに 1989 年第二次天安門事件迄約 10 年間続きました。この 10 年間を北京の春と言います。(この間中国人が数万人海外留学しました。) 中国の中央政府 (鄧小平の時代) に役人に支払うお金(給料)が無くなったと聞いております。その時、江沢民は 60 歳の定年間際で、上海政府の蓄えた資金を中央政府に還元したことと、上海での学生デモをうまく処置したので陳雲の推薦で鄧小平が認めて国家主席になりました。鄧小平は第一線から退きました。しかし軍事主席の地位にはいました。

中央政府に還元したお金の中には、日本で有名な会社の国営企業救済の投資資金であります。日本企業は多額の損失を被り、上海の浦東空港は日本の ODA (海外援助資金) も入っているのに、空港には感謝の石碑すら見ることができません。中国の田舎の大学には建造の感謝の石碑があるのですが・・・。現在は第二空港が出来ている。上海には数万人の日本人が住んでいるが、中国には約 4000 店の日本料理店があり、約 1/3 が上海にあります。“上海は中国から独立している市？”かと私は時々錯覚するのがあります。またまた話しがそれそうなので、頑張って戻そうと思います。

### 第三章 中国に能力主義導入 (拝金主義の復活)

1992 年天安門事件終結後、鄧小平が中国南部の武漢、深圳、珠海、上海などを訪問して所謂、“南巡講話”です。鄧小平が 1985 年に中国沿岸地

区が経済特区として解放した成果の視察であった。成功を確信した鄧小平は“不啻黒猫白猫、捉到老鼠就是好猫（黒猫も白猫も鼠を捉える猫はよい猫だ）”と宣言しました。“改革開放”の完全宣言です。

生産性が国の第一目標との社会主義市場経済が中国に導入されたというより、弱肉強食的な資本主義経済が導入されたという事であります。中国が平等主義から能力主義に変わったのです。中国の“拝金主義”の復活です。共産党の地方幹部は生産性の悪い国営企業の解体・改良・民営化等で成功すると、その地方幹部は能力のある人として出世し、民間人はお金を稼ぐ人が能力のある人となったのであります。そこには当然官民の癒着もあったのも事実であります。

現在 65 歳の人で当時 47 歳の役人であれば権限もあり、給料以外のお金も相当得られました。趣味が少ない（読書・運動・魚釣り・テレビを見る程度、ゴルフは貴族のスポーツと言われ、する人が少ない）中国人にとっては、当然のこととして「不倫」に走り、結果として離婚にいたりしました。（大抵は若い女性が勝ちます。）一方、解体された国営企業の中堅幹部は職がなくなり失業する。すると、家庭内で「夫婦の経済を巡る紛争」が生じ、男女平等主義で経済的力を持った奥さんが家庭主婦をやめ、主人を追放して離婚するというパターンもありました。女性が男性化してしまったのであります中国

の婚姻制度は“夫婦別姓”なのであります。

私には、数回、目の前で夫婦喧嘩を目撃した経験があります。日頃、ひ弱な女性が夫に対して腹が立つと人前でも殴るし、喧嘩をする際の「言葉の激しさ」には吃驚しました。(日本では、男の使用する言葉と女の使用する言葉が違うが、現在中国語は男女共、同じ言葉を使用する)。

しかし夫婦が離婚しても、儲かる仕事に関しては協力しあい、離婚した元夫婦同志が奇妙な「出戻り不倫」をするケースもあります。追放された主人はまた結婚し、また追放されて離婚するという複雑なケースです。

社会が結婚・離婚のゲーム(罪悪感のない)社会になってしまったようであり、まるで結婚・離婚が諺の「塞翁が馬」(さいおうがうま、不幸と思っても実際は幸福である。離婚してもまた結婚できるチャンスが出来た。)の如きであります。

日本人には不倫をした女性と「いくら儲かるか」と言って一緒に仕事をするという価値観を持った男性は99%ないと思われれます。また、“浮気をする女性はまた浮気をする”、“裏切る人間は仕事をしてもしも裏切る”。“万引きする人間はまた万引きをする。”、“麻薬を吸う人はまた麻薬を吸う。”というような「教え」を余り面子に拘(こだわら)ない日本人でも、先祖から教育されています。従って、日本人の男性は裏切られた女性とは幾ら儲かる仕事でも、絶対一緒にはしないのです。さりとて、日本人は根本的に

人よしで、情（なさ）けがあるから、女性が経済的に困れば、別予算で助けるかもしれません。この様な日本人は現在では多分 100 人に一人存在するか否かではと思いますが・・・。

余談ですが、日本では、男が女の不倫をした事を知れば、古来では“お手打ち御免（ごめん）（男性が女性の首を刀で切ることが許されてきました。）また戦前は姦通罪で捕縛（ほぼく）されました。女が反論すると男性が女性を殴り飛ばしたものです。（私は決して女性を殴りませんが・・・）所謂日本型封建主義で日本人の 60 歳以上に日本型封建主義少し残っていると申し上げても過言ではありません。日本女性の場合、反論はしても罵（ののし）る女性は非常に少ない。

日本でも経済的理由以外での別居夫婦を見かけるが、女性が冷たいのではなく男性が冷たいのであり、仮に「冷たくななくてもお金に細かい男性」「一般常識ではなく自己の常識で口やかましい男性」に別居が多くみられる傾向があります。

さて、1992 年以降の中国の情勢（政治）と「離婚」の関係についての考察に戻りたいと思います。

## 第五章；漢民族の第一次民族大移動

1992 年以降、中国・役人の高級幹部の優秀な子供達が夢を求めて、海外留学を再開しました。当時中国の都市部で若者は、軍隊に入るか、役人になるか、病院に勤めるか、海外資本が投資したホテルに勤めるか、比較的よい国営企業に縁故就職するか以外、就職先がなかったのです。



1997年香港が中国に返還され、同年鄧小平が亡くなった。1998年中国に税理士制度が導入された翌年の1999年に更なる国営企業改革が強化され、各地方政府も海外企業に投資優遇策を示し勧誘合戦が始まりました。まるで役所が日本の総合商社のような動きに変わり、合弁・合作会社が数多く作られ世界から相当な資金が中国に投資されました。投資資金の殆どは回収されず中国に残り、合弁・合作会社は中国人が経営しました。この新しい事業成功者の男性達が問題なのです。よく金を使うし、よく遊びます。愛人を複数かかえる人もおり、新しい愛人に子供が出来ると当然の如く離婚に至ります。若い女性が奥さんを追い出すのです。

余談ですが、唐の時代、皇后以下上位の妃を追い出したり、殺したり中国人女性で初めて皇帝になった武则天（則天武功）を思い出す。武则天は漢の国を作った劉邦の呂皇后、清の時代の西太后、文化大革命を指導した江青の四大悪女の一人にされている。

## 第六章；鄧小平病に倒れる。漢民族第二次民族大移動

1994年1995年頃、鄧小平が寝たきり状態になりました。すると中国実力NO1になった江沢民が突然、“反日教育”を学校教育に導入しました。理由は、江沢民は日中戦争の最中に最も信頼する叔父さんが南京市で殺された為とのことです。（“反日教育”については第14計で詳しく書きます。）

また私が初めて北京に行った2000年は北京オリンピックの開催が決定し、2001年に中国がWHOへの加入が認められると、中国の経済は爆発

し、三か月が一年（畑が三か月後工業団地に様変わり）のようなスピードで中国沿岸都市のマンション・ホテル・高速道路等の建設ラッシュが始まりました。その後徐々に内陸部に入り、現在も続いています。また農村部にもテレビが普及しだしたのもこの頃です。

農村の人がテレビを見るという事は、結果として農村の若者が都市に集まるという事であります。若者達に新しい出会いの機会が出来たのです。すると、風土・価値観の違う省外結婚（同郷結婚ではなく、まるでフランス人とドイツ人が結婚、北海道の人と九州の人の結婚）が始まったのであります。海外留学生達にも省外結婚が始まったし、国際結婚も始まりました。その省外結婚が始まった頃、私は、親同士の価値観が違いにより離婚する夫婦も何組か見ました。ただ、どちらかが片親の夫婦には離婚は少ないという傾向もあります。余談だが、中国旧暦でいう年末の帰省ラッシュは凄いです。私は電車で1度経験しました。満席でもお金を三倍払えば確保できます。乗務員の部屋でしたけれど・・・。

2000年前後から海外に留学した若者達の半数が中国に帰り企業を起こし始めました。事業に成功した男性の夢は“車はドイツのベンツ社製、奥さんは日本人、住まいはアメリカ風の芝生のある庭がある一戸建て”を求めようになったのです。一人の若者が成功すると、次から次とまるで“鼠

が繁殖”するように成功者が続出しました。当然、中国は人口が多いので、次から次と若い美人の女性が出現し、女性が 25 歳をこえると（特に 30 歳を超えると）理想の男性と結婚できなくなりました。都市部と農村部の若い男女の結婚は皆無に近いという事実もあります。

一方、帰国留学生の女性も男性に“負けじとばかり（負けないぞ）”に自分で企業を起こし始めました。この頃から女性の化粧品が爆発的に売れ始めたのです。興味深いことに、この頃の女性企業家の半数以上は離婚経験者か、独身者が多いのです。まるで英国美人のエリザベス 1 世が男性に裏切られて男性不信となり、国と結婚するといったように仕事と結婚しているような気がいたしました。

## **第七章；農村部の離婚**

都市部に比べ農村部は離婚の原因が違うと思います。農村にはかなり封建主義（男尊女卑）が残っていて、女性も好きでないのに親が決めた人と結婚しているケースがかなり存在します。また男性の暴力に耐えきれず、女性が飛び出したり、子供がいなければ自殺したり、親の医療費負担に耐え切れず離婚するという悲惨なケースもあります。

## **第八章；都市部の中流家庭の離婚（中国ドラマを見て）**

中国では農村部を除き団地のアパート、マンション生活が多く、職場が

同じ人が多い。まるで企業の家族社宅のようであります。そういう家族社宅のようなものを舞台に「離婚」に関わる中国ドラマがあります。DVDでみた有名な女優の蒋文麗（ジャン ウン リ）さんが演じる“中国式離婚”では同じ団地のアパートに住む“男性の家族（夫（医者）、奥さん（小学校の先生）、男の子（六歳））”、と“女性の家族（女性（医者、男性と同じ職場、離婚）、女の子（六歳））”のに家族部屋が真向いになり、日頃仲の良い家族同士が、ある日突然女性の小学校の先生の猜疑心・嫉妬心の妄想から離婚するとのドラマでありました。

“中国式離婚”というのは中国人女性がいかに猜疑心・嫉妬心による妄想の呪縛に陥るかを示したドラマなのでした



蒋文麗さんは別のドラマでは“金婚(式)”にも出演している。“金婚(式)”というドラマはいつ離婚してもおかしくない状態がたまたま 50 年続いたというドラマで、しかし 51 年目はひょっとすると離婚するかも知れないと余韻を残したドラマで大変面白い傑作だと思います。

中国では大半の夫婦が共働きであり、中流家庭以上の家庭では子供は中

学生から学校の寮生活を初める。子供が寮生活を始めると、すれ違い夫婦になり双方とも浮気をし、当然離婚の確立が増します。被害者は子供なのであります。

中国では企業も若く、日本のような終身雇用制度が確立されていません。住宅家族手当・健康保険、失業保険・厚生年金・退職金制度が一部の企業を除き確立されていないし、離職者も多いのが現状です。大半が自分で事業を起こしたいと考えています。また、中国人は中国人に使われるのは厭と考えているのも本当のことだと思います。

### 第九章；中国に“反日教育”をやめて“儒教教育”の復活を望みたい

現代中国には、経済成長も早くインフレ率も高く貧富の格差も異常な格差があります。私は中国経済が膨張（ぼうちょう）すればするほど離婚率は上がると思うのです。今後世界の国々は軍事力・経済成長率競争以外に、環境率とか、寿命率とか、離婚率とか、出生率、動植物の生態率等の時代に変化すべき時代に入ったと思うのは飛躍しすぎでしょうか。

2年程前から都市部で「一人っ子政策」の緩和で民間の漢民族である若い夫婦（30代）の間に子供が二人の家庭が少しずつ出現してきました。

家族の復活であります。日本・中国両国で見られるそういう若い夫婦は仲がよく、信頼関係が確立されているし、礼儀作法もある。離婚はまずし

ないと思われます。日本人が中国人と交流するには、こういう夫婦が一番いいと思います。違和感が少ないからです。

私は決して、日本と中国との決裂を意図しているのではありません。私は、寧ろ中国と中国人を心から愛しております。

何故なら、私の先祖も漢民族で遣隋使であったとの言い伝えがあります。南淵請安は大化の改新に貢献し、医者でもありました。それと私も既に中国の名誉市民をたまたま取得済みであるという理由もあります。そういう意味であれば私は、日本の武士道精神を持った中国人かも知れないのです。

南淵請安は 608 年、遣隋使小野妹子に従い高向玄理、僧旻ら 8 人の留学生、留学僧の一人として隋へ留学する。32 年間、隋の滅亡（618 年）から唐の建国の過程を見聞して、640 年に高向玄理とともに帰国。隋・唐の進んだ学問知識を日本に伝えた。

そんな私は少なくとも中国人に子供が成人するまでは離婚は避けるべきであると言いたい。

デンマークに“幼少時代に愛をたくさん受けた子供は大きくなって人に愛を返せるが、幼少時代に愛を受けていない子供は大きくなってても人に愛を返せない。”という諺があります。日本でも 2～30 年前まで親が離婚した子供は優秀な幼稚園にも入学出来なかつたし、大企業にも就職出来なかつたし、男性・女性共、世間から蔑視され笑いものにされたものです。日本には“子供は親の背中（行動）を見て育つ”という諺があります。親が離婚した子供は、将来本人も非常に離婚率が高いというデータがあるのです。

歴史は繰り返されるのであります。

私は、毛沢東もそうであるが。1978年鄧小平が来日したとき、東京・京都・・・だけでなく伊勢神宮を見せてあげたらよかったのにと思う。それと温泉に入れてあげたらよかったのにと思う。“儒教”が残っていれば漢民族の離婚が減っていたと思います。

### 中国に離婚が多いのは、

- ① 毛沢東の宗教否定の完全平等主義が現代中国にはいまなお「完全男女平等主義」として残っており女性の権利主張が強く、しかも「夫婦別姓」が離婚を前提とした「契約結婚」のようになっている。
- ② 「一人っ子政策」がいまなお続いており子供が“小皇帝”になっていて日本の長谷川町子さんの漫画「さざえさん」のような「ほのぼのとした家庭」が構築されていない。夫婦が「信じた愛」に背を向けあっている。
- ③ 儒教の諭す「礼儀作法」を否定したままの鄧小平の“改革開放”は現在中国の離婚多発の“改革開放の負の遺産”であると思います。

(2010/10/11)